

国連開発計画がインドネシア・アチェ市で実施する Matching Platform プロジェクトの Scoping Mission に参加しました(2018/6/28)

テーマ：災害統計グローバルセンター（GCDS）、国際連携
場所：インドネシア・アチェ地方開発企画庁 会議室

2018年6月28日（木）、インドネシア・バンダアチェのアチェ地方開発企画庁において、国連開発計画（UNDP）が実施する Matching Platform プロジェクトの Scoping Mission が開催され、情報管理・社会連携部門の小野裕一教授、智片通博特任教授（客員）、及び、佐々木大輔助教が専門家（technical advisor）として出席しました。

アチェは2004年のインド洋津波で16万7千人もの犠牲者を出しました。当該プロジェクトは、都市が抱える課題の解決に向けて、地方政府（市役所等）と民間企業が連携する取り組み（公民連携（Public-Private Partnership））を促進することを目的としており、当会合（Scoping Mission）では、バンダアチェ関係者（地方政府）・富士通株式会社（民間企業）・UNDP（コーディネータ）・東北大学災害科学国際研究所（専門家）が一堂に会し、当地における防災力の向上に向けて活発な議論が行われました。また、会合後にはバンダアチェ市長への表敬訪問を実施し、当該プロジェクトの意義やその必要性について説明を行いました。その際、市長からは是非プロジェクトを円滑に進めてほしい旨要請がありました。

アチェの復興に関しては、内外から巨額の支援を得たにもかかわらず、結局現在まで防災のための構造物が作られず、ゾーニングも実施されず、年々津波リスクは高まるばかりという状態になっています。根本には防災の重要性の理解不足があるためと思われるのですが、この状況を打開するためには、長期的な視野に立った住民への啓発活動が重要と思われます。津波避難訓練に関して科学技術に基づいた防災教育と啓発、ICT 等を取り込んだアチェ津波博物館の充実、メディアを巻き込んだ平時の取り組みなどを核としながら、当該プロジェクトに参加してまいります。

また、災害統計グローバルセンター（GCDS）では、引き続き地方政府等とも連携を密に取りながら、災害統計の発展に向けて、積極的に取り組みを進めていきます。



会合の様子



市長への表敬訪問の様子